

SUNDAY NIKKEI α

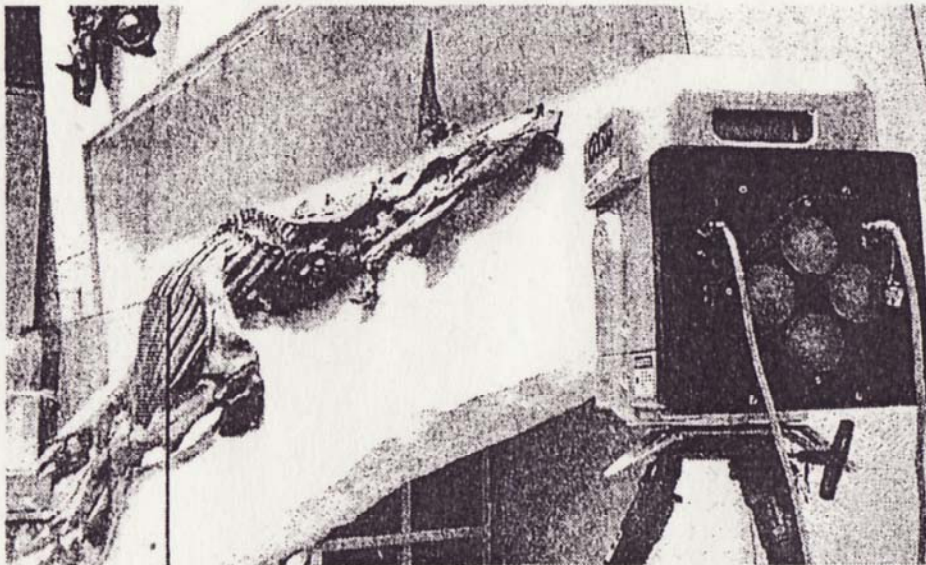
進化と絶滅の物語

恐竜学者の目から

②

私たちの腰と脚（後肢）は背骨としっかり関節でつながっている。しかし、肩と腕（前肢）は背骨とは筋肉でつながっていない。魚の胸ビレは後頭部と骨でつながっている。約三億六千万年

前、魚が両生類になり上陸したとき、胸ビレが頭骨と分離して前肢と肩ができた。頭と肩が分かれた結果、首ができ、頭を自由に動かせるようになった。彼らの遠い子孫であるヒトも恐竜も、肩と背骨が関節でつながっていない。



壁に展示されたトリケラトプスの標本をレーザーで計測提供・国立科学博物館、協力・中庭測量コンサルタント

「肋骨」から肩を復元

国立科学博物館の角竜トリケラトプスは、骨の完全度が世界一高いと言われている。トリケラトプスの肩の関節の仕方も謎だ。東京大学の大学院生の藤原慎一さんは、肋骨（ろっこつ）の構造的な特性を調べることで、恐竜の肩と前肢の正確な復元を目指している。

博物館の展示室は、時として研究室にもなる。先日、トリケラトプスのレーザー計測が行われた。測量技術が進歩し、数十センチ離れた物体を数ミリの誤差で計測できるようになった。そんなハイテクの力を借りながら恐竜学も進歩している。

（国立科学博物館主任研究官

真鍋 真）